

平成 29 年度 第 3 回白馬高校学校運営協議会 議事録（概要）

- 1 日 時 平成 29 年（2017 年）11 月 16 日（木）午後 3 時～5 時
2 場 所 長野県白馬高等学校会議室
3 参加者 9 名（欠席 1 名：奥原委員）

この他、長野県教育委員事務局高校教育課 2 名
白馬・小谷両村関係者 4 名
白馬高等学校職員 3 名

4 次 第

- (1) 開会の言葉
(2) 長野県教育委員会挨拶
(上野高校教育課高校改革推進係長)
(3) 白馬高等学校長挨拶
(4) 報告事項
・学校の現状報告（北村校長）
(5) 生徒発表



- ・今年度の学習成果発表（国際観光科 1 学年の生徒による）
「白馬・小谷の課題発見～RESAS を活用しながら～」
 - ①第 1 グループ「ニュービレッジ白馬 ～リニューアル新しい白馬へ～」
 - ②第 2 グループ「白馬スキー人口～フリースタイルが増えてきている理由～」
 - ③第 3 グループ「白馬村のコンビニエンスストアは、本当にコンビニエンスなのか？」

(生徒との質疑応答)

<白馬村副村長>

○寮に住んでいる生徒の皆さんは、どんな「放課後ライフ」が理想なのか。

- ・(生徒) 帰り道にコンビニで肉まんを買って食べたいという夢があるが、近くにはコンビニがない。

<小谷村副村長>

○夏のアクティビティで、どんなものがあったら良いと思うか。

- ・(生徒) 芝生の上をすべる人工スキー場がほしい。村内のスキー場でも芝生のスキー場ができれば、もう少しお客さんが集まるのではないか。
- ・(生徒) マウンテンバイクのコースをもう少し増やしてほしい。
- ・(生徒) 都会にあるような公園らしい公園がほしい。

<岸委員>

○白馬へのアクセスが悪いという課題を考えると、交通機関の改善というのは、国や県にお願いしなければいけないので時間がかかる。こういう提案の時には、明日からでもできることを考えたらどうか。アクセスが悪いならば悪いなりに、お客さんは自家用車で来るケースが多いと考えると見えてくる魅力もある。自家用車で白馬に来ないとできないことや、白馬に行きたいと思えるようなことを考えたらどうだろうか。

<下川委員>

○白馬村は、村ごと自然公園になっている。素晴らしい景観、歴史文化がある。

<松本委員>

○コンビニがないというのが切実な問題のようだが、他人に頼るのではなく、学校の周辺のお店に頼んでみるとかいろいろチャレンジすれば良い方法が見つかるのでは。

<白戸会長>

○今の世の中、観光客が旅行で得るものは、「モノ」だけではなくて、そこに人が介在することによって生まれる「コト」である。今後の研究を白馬・小谷の人々とコミュニケーションをとりながら進めていく上で、その人たちができる「コト」を考えると良い。まだ1年生なので今は完璧ではないかもしれないが、この先、スキーや登山で白馬・小谷へ行けばこんなことをしてもらえる、こんな体験もできる、というようなことを提案できるようになると、さらに魅力的なものになると思う。

<北村委員>

○白馬・小谷の良いところや住んでみて驚いたことなどの感想を言ってみてほしい。

- ・(生徒) 人と人とのかかわりが密接で、みんなお互いに知っている。都会とは違う。
- ・(生徒) 白馬・小谷は、自分の道を広げてくれた。スキーだけでなくマウンテンバイクや釣りもやりたい。
- ・(生徒) 水や星、山の景色がきれいだ。外国人が多い。同じ長野県内とは思えない。
- ・(生徒) こんなに自分の意見が言えて、それに対してみんなが真面目に考えて受け止めてくれる環境に感動し、びっくりした。中学校までは、こんなにボランティア活動をしたこともなかったし、フィールドワークで学校を離れて学習したこともほとんどなかったけれども、こんなにいろいろなことができて、本当にうれしい。

(協議会委員による意見交換)

<岸委員>

○1年生が入学してまだ7カ月で、「人と人の距離が近い」とか「自分の道を広げてくれた」「自分の意見を言って、みんな考えてもらえる」との感想や感動をもったということは、先生方や関係者のみなさんのお力だと思う。

<白戸会長>

○自身も生徒のフィールドワークの支援等に関わる中で、今回の白馬での取り組みは、今後の発展がおおいに期待できると感じた。

<下川委員>

○村民運動会に生徒たちに来てもらったり、信州デスティネーションキャンペーンに参加してもらったりして、交流することによって村民との距離が近くなり、その結果、白馬高校や白馬高校の生徒たちへの村民の理解につながってきている。

<松本委員>

○小谷村民の中には、なぜここまで白馬高校に支援しなければいけないのかという疑問の声も一部にあるが、生徒の皆さんが村民運動会にも来てくれて、住民との距離が近くなって、いろいろな地区でもぜひ白馬高生に来てもらいたいという要望が広まっている。高校生が村に来てくれることが一番のPRになる。白馬高校の生徒には、白馬村・小谷村の職員の採用試験もぜひ受けてもらいたい。期待している。

<白戸会長>

○白馬・小谷両村からの支援を得て始まった新たな学校運営も2年目の後半を迎えている。次回の第4回学校運営協議会では、両村からの支援事業等について、今後の展望やこれまでの評価などをテーマとして扱いたい。

(6) その他

○第4回学校運営協議会は2月19日(月)10:00~12:00を予定

(7) 閉式の言葉